

日米和親条約と生麦事件 幕末の重要な条約と重大事件の現場となった横浜



随行画家のハイネ作「日本遠征石版画集 Graphic Scenes in the Japan Expedition」でのペリー肖像。ダゲレオタイプをもとに石版画にしたもの(神奈川県立歴史博物館蔵)



大さん橋に臨む開港記念広場。市民憩いの場だが、いくつかの遺構も展示されるまさに歴史のスポット。日米交流150周年の際には記念樹も植えられた。



応接所に入るペリー一行。当初は浦賀に用意していたが急遽、海上輸送し横浜に設置。約500人の水兵とともにペリーは横浜に初上陸(横浜開港資料館蔵)



日米会談を行った応接所見取図。図の右側に米国、左に林大学頭ら日本側が着席。4回の会談後、条約が結ばれた(横浜開港資料館蔵)

ペリー提督の再訪と日米和親条約締結

浦賀で大統領の国書を手渡したペリーは、猶予を求める幕府の要請を受け入れ、東京湾の測量を行うに留め帰国の途について。

嘉永7(1854)年、予告通りペリーは東京湾上に現れ、横浜の小柴沖に錨を下ろした。今回の艦隊は軍艦が7隻で、返答次第では武力行使も辞さないという圧力だった。

江戸での交渉を迫ったペリーだったが、粘り強く説得を重ねる幕府に譲歩し、横浜村胸形に新しく設置された応接所での協議に応じる。現在の横浜市中央区、横浜開港資料館がある辺りとされる。

双方の協議の結果、同年3月31日に日米和親条約が結ばれた。条文は12カ条からなり、これによって下田と箱館(函館)の開港及び、下田に米国の領事館を設置することなどが決定し、日本の鎖国体制は終了した。

横浜開港資料館に隣接する開港記念広場には、日米和親条約調印記念の地としての記念碑が立つ。また、外国人居留地にあった大砲などが展示され、1980年代に公園の整備中、地中から発見されたレンガづくりのマンホールと下水道もガラス越しに見ることが出来る。

横浜開港資料館は、日本の開港と横浜の発展の歴史を紹介する、内容も充実した博物館。展示を行う新館

と、昭和6(1931)年に建てられた元英国総領事館の旧館からなり、旧館は横浜市の指定文化財に登録されている。

新館と旧館に囲まれた中庭には「たまくすの木」と呼ばれるタブノキの大樹がはえている。ペリー艦隊に随行していた画家ハイネ作の「横

浜上陸」にも描かれた木であるという。

慶応2(1866)年の大火や大正12(1923)年の関東大震災などの災害に見舞われ、大きな被害を受けながらもそのたびに力強く復活を遂げてきた、歴史の生き証人なのである。

日米間で結ばれた最初の条約



横浜開港資料館中庭の「たまくすの木」。慶応2(1866)年の居留地の大火や関東大震災で大半が焼けたものの芽を息吹かせ、現在の地に移植し育ち続ける。



ペリーが横浜に上陸の様子を描いたハイネ原画の石版画。音楽にあわせて行進する米乗組員の姿を見て、日本人は規律の正しさに驚いたという(横浜開港資料館蔵)



横浜開港資料館は25万点を超える文書記録や新聞雑誌、浮世絵などの資料を保管。随時企画展も開催している【住所】横浜市中央区日本大通3【電話】045-201-2100【開館】9:30~17:00、月曜休館【入館料】一般200円 <http://www.kaikou.city.yokohama.jp/>

SPOT



Au jardin de Perry
店名のオー・ジャルダン・ドゥ・ペリーはフランス語で「ペリーの庭」という意味。横浜開港資料館の喫茶室にふさわしい名前。香り高いコーヒーやフランス直輸入のワインなどとともに、食事や各種スイーツがいただける【電話】045-662-8345【営業】8:00~17:00、土日祝日は18:00まで、月曜と年末年始休み。

開港前夜の横浜と 外国人居留地誕生

日米和親条約の締結から4年後の安政5（1858）年、米英仏露蘭5カ国との間に修好通商条約が結ばれ、各国との通商及び神奈川の開港が決まった。

神奈川宿の名寺には各国領事館や公使館が開設され、翌年、運上所が設けられた。貿易や外交業務、外国人の居留地整備などを総合的に行なう機関で、神奈川宿対岸の横浜村、現在の県庁辺りにつくられた。

米国総領事のハリスは、取り決めでは神奈川宿であると幕府に抗議するが、横浜も神奈川の一部として、強引に開港の建設が進められる。

新田地帯のため開発がしやすく、海は大型船が入港できる水深を有していた。また幕府は、外国人との接触によるトラブルを未然に防ぐこともあり、人が多く集まる東海道の神奈川宿を避けたかった。事実上、横浜が開港場となり、各国も利便性から、次第に領事館や公使館を横浜に移す。そのような中、やがて幕府の心配が現実のものとなった。

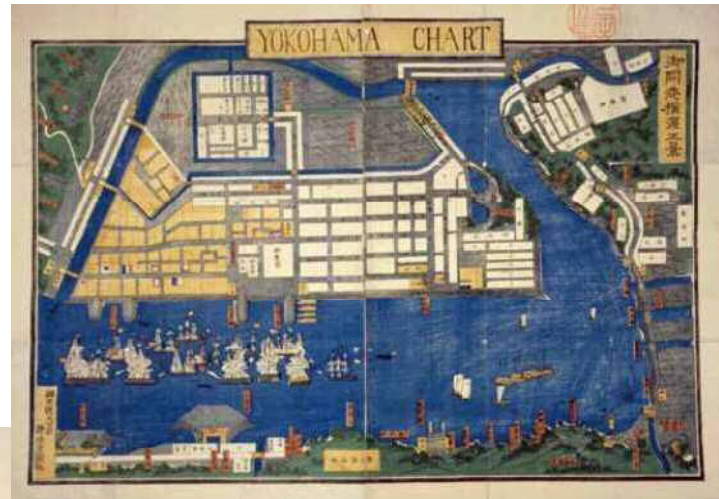
日本の歴史が変わる 契機の一つとなった事件

その頃の日本では攘夷運動が高まりを見せ、文久3（1863）年には近隣の井土ヶ谷で、翌年には鎌倉で攘夷過激派による外国人殺傷事件が発生した。居留地に暮らす外国人は、10里四方までの外出は許可されて、休日には郊外の散策を楽しむ外国人も多く、そこを狙った事件であった。

井土ヶ谷事件の前年の文久2（1862）年、東海道の川崎宿と神奈川宿の間に位置する生麦村でも外国人殺傷事件が起きている。

江戸を出立し帰路についた薩摩藩主の父、島津久光の行列に、女性を含む4人の英国人が馬に乗ったまま割り込み、薩摩藩士に切られたのだ。一人が死亡、二人が負傷するという事件で、日本の事情を知らない外国人の非礼に対する無礼討ちであった。

当時の横浜居留地に暮らす外国人の遊歩区域は、東は多摩川まで、多摩川手前である川崎大師への遠乗りは、美しい景色も堪能できると外国人たちの間で評判だったという。



神奈川県庁本庁舎敷地内にある、神奈川運上所跡の碑。運上とは税金の事で、現在の税関業務や外交業務を行った。明治5（1872）年に横浜税関に改められ、いまに至る。



山手から見た幕末の吉田新田の写真（横浜開港資料館蔵）。元は浅い入江だったが17世紀半ばに材木商の吉田勘兵衛が中心となり11年の歳月を費やし干拓。吉田新田と呼ばれる。

元治元（1864）年頃の「御開港横浜正景」。横浜が入江を埋め立て造成されたことがわかる。港近くの大きな運上所や、左下の海に突き出た神奈川台場も描かれている（横浜開港資料館蔵）



開港後に相次いで発生した外国人殺傷事件に各国は激しく非難。幕府は警備強化のため神奈川宿の西側、神奈川台に閘門を設けた（長崎大学付属図書館蔵）

東海道の臨む 漁村で起こった 幕末の大事件

外国人のために英国海軍軽歩兵隊大尉ホースが製作した「横浜周辺外国人遊歩区域図」。赤いラインが安政の5カ国条約で規定された遊歩区域を示す（神奈川歴史博物館蔵）



上海の商人リチャードソンが殺害された生麦事件の現場付近の幕末写真。横浜で暮らしていた英国人写真家のペイトが撮影した（横浜開港資料館蔵）

東海道の生麦をゆく大名行列が描かれた貞秀作「東海道之内 生麦」。発行は文久3（1863）年で事件の1年後になる。生麦は将軍に海産物を献上する「御菜蒲」の一つで、のどかな漁村だった（国立国会図書館蔵）



一川芳員作「神奈川権現山外国人遊覧」一部。馬に乗る外国人女性が描かれている。権現山周辺は最初に各国領事館が置かれたところ。幕末から明治にかけて山は削られ、土が台場や鉄道用地埋め立てに使われた（国立国会図書館蔵）



万延元（1860）年、船舶の監視用に神奈川台場が築造された。勝海舟が設計し、伊予松山藩がつくった海防砲台は東西の幅が200m以上、約2万6000平米（約8000坪）だった。海に突き出た扇形の台場で1年以上の歳月をかけてつくられた。現在、一部が公園として整備されパネルなども設置されている。



ミニコラム
5万点以上の資料を有する
神奈川県立歴史博物館

「かながわの文化と歴史」を総合的に扱う唯一の博物館。5万点を超える資料を有し、先史・古代から現代に至る五つの時代で、人々の生活や信仰、政治や経済、外来文化の影響などを歴史的視点で紹介、展示する。重厚な建物は明治37(1904)年に建てられた横浜正金銀行本店。国の重要文化財・史跡に指定されている。現在、改修工事のため全館休館中で、平成30(2018)年4月下旬に、収蔵に適した空調を整えた快適な観覧環境を実現し、リニューアルオープンする予定。歴史的価値を残しつつ、設備を一新する神奈川県立歴史博物館に期待したい。



ドームは関東大震災で焼け、昭和39(1964)年に復元された【住所】横浜市中区南仲通5-60【電話】045-201-0926 <http://ch.kanagawa-museum.jp/>

散歴歩

その他おすすめ
スポット&情報

国道駅(JR鶴見線)

昭和5(1930)年に開設され、昭和初期の雰囲気がいまなお残すレトロな無人駅。第一京浜国道を跨いでいることから駅名に。駅舎はアールヌーボー風の趣ある建物で、開業当時は多様な店が立ち並び、多くの客で賑わったという。



港の見える丘公園

横浜港を望む絶景ポイント。外国人居留地だったところで、生麦事件で死亡したりチャードソンも眠る横浜外国人墓地に近い。平成28(2016)年、いままでもバラ園だったエリアは「イングリッシュローズの庭」としてリニューアルした。



本覚寺

横浜開港の3日後に、米領事館として接収された本覚寺。日本で初めてペンキが塗られた寺としても知られる。生麦事件で負傷したマーシャルとクラークの二人はこの寺に逃げ込み、アメリカ人医師のヘボン博士から手当てを受けたという。



ACTIVITY

体験



キリンビール横浜工場

工場見学が幅広い世代に人気。ビールのこだわりを迫るツアーだけでなく、広大なピオトーブを巡るツアーも。ビールづくり体験教室ではオリジナルビールをつくることのできる。ネットで申し込みと便利。無料【住所】横浜市鶴見区生麦1-17-1【電話】045-503-8250【開館】10:00~17:00、月曜休館 <http://www.kirin.co.jp/entertainment/factory/yokohama/>



SPOT

立ち寄り所



味童 天金

旧東海道の魚河岸通りにある料理店。名物のアナゴをはじめ、主人が目利きした上質な地魚が、天ぷらや刺身などでいただける。生麦は漁村だったところだが、主人の先祖も代々ここに暮し、江戸時代の記録にも残るそう。JR鶴見線：国道駅から徒歩約1分【住所】横浜市鶴見区生麦5-12-2【電話】045-521-5895【営業】11:00~22:00、第2・4月曜休み



明治16(1883)年に鶴見の黒川荘が英国人の死を悼み、事件の風化を防ぐため生麦事件碑を建立。毎年、事件のあった8月21日には記念祭が。



生麦事件発生現場近くに鎮座する道念稲荷神社。毎年6月第1日曜日に行われる「蛇も蚊も」祭りは300年の歴史を誇り、横浜市無形民俗文化財に指定。



生麦事件現場を説明する案内板。英国人たちが行列に割り込み刃傷が発生した現場。「生麦事件碑」は切られたりチャードソンが逃亡の末に絶命した場所に立つ。



生麦事件参考館は生麦事件に関する国内外の多数の資料を展示する私設資料館。館長の浅海武夫氏が解説してくれるので事前の連絡が必要【電話】045-503-3710



Course 13

日米和親条約と
生麦事件
おすすめコース

- 〜 徒歩
- JR 国道駅〜生麦魚河岸通り
- 〜 道念稲荷神社〜生麦事件発生現場
- 〜 生麦事件参考館 (要事前連絡)〜生麦事件碑
- 〜 キリンビール横浜工場〜京急・生麦駅

また途中の生麦村では、スーザンと呼ばれる看板娘がいる茶屋でひと息つくことも話題だったようで事件に遭った英国人たちもそのような散策を楽しむ予定だったのだろう。しかし、薩摩の行列に遭遇した。この生麦事件は外交問題に発展し、賠償をめぐる翌年、英国と薩摩との間に武力衝突が起こる(薩英戦争)。鹿児島城下は英国艦隊の砲撃を受けて炎上。英国側も艦長などが砲弾で死亡し、さらに台風も来るなど人的に薩摩は賠償金を支払う。その後、互いの実力を知った薩摩と英国は歩み寄り、英国から武器を購入するなど、明治維新に進む契機にもなった。

生麦1丁目の旧東海道沿いには、事件を伝える碑が立っている。無駄死にはなかったと、英国人を悼む内容である。いまでは記念碑の上を高速道路が通り、当時の面影は感じられないが、東へ700メートルほど行った事件現場付近は、道も緩やかにカーブするなど旧東海道の雰囲気を残している。